

平成18年4月28日発表

平成17年漁業・養殖業生産統計(概数) (鹿児島県)

海面漁業・養殖業ともに増加

【調査結果の概要】

漁業・養殖業の生産量は18万542 tで、前年に比べ1万7,373 t (10.6%) 増加しました。

- 1 海面漁業の漁獲量は10万9,245 tで、前年に比べ1万2,415 t (12.8%) 増加しました。
- 2 海面養殖業の収穫量は6万3,521 tで、前年に比べ5,309 t (9.1%) 増加しました。
- 3 内水面漁業の漁獲量は1 tで、前年並みとなりました。
- 4 内水面養殖業の収穫量は7,775 tで、前年に比べ351 t (4.3%) 減少しました。

図1 漁業・養殖業生産量の推移

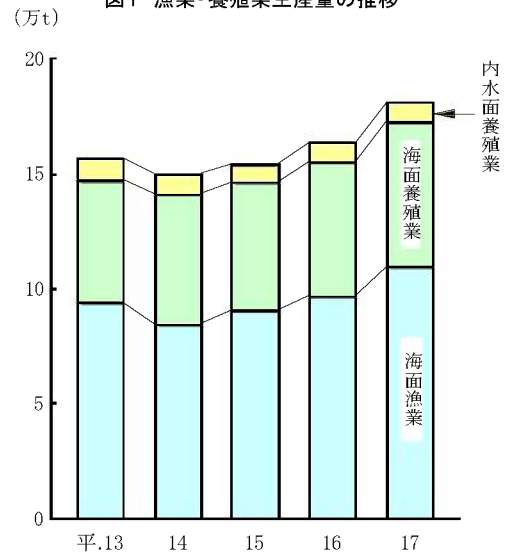


表 漁業・養殖業生産量

区分	平.17	16	対前年差	対前年増減率
	t	t	t	%
漁業・養殖業合計	180 542	163 169	17 373	10.6
海面漁業・養殖業計	172 766	155 042	17 724	11.4
海面漁業	109 245	96 830	12 415	12.8
海面養殖業	63 521	58 212	5 309	9.1
内水面漁業・養殖業計	7 776	8 126	△ 350	△ 4.3
内水面漁業	1	1	0	0
内水面養殖業	7 775	8 126	△ 351	△ 4.3

○内水面漁業は、鹿児島県内の大淀川の漁獲量です。

○内水面養殖業は、主要4魚種(ます類、あゆ、こい及びうなぎ)の収穫量です。

この資料は鹿児島農政事務所ホームページの「数字で見る農林水産業」で御覧いただけます。

【<http://www.kagoshima.info.maff.go.jp/index.htm>】

E-mail kagoshima_info@kyushu.maff.go.jp

【解説】

1 海面漁業

海面漁業の漁獲量は10万9,245 tで、前年に比べ1万2,415 t (12.8%) 増加しました。

(1) 主要漁業種類別漁獲量

ア 釣の漁獲量は3万9,849 tで、前年に比べ6,581 t (19.8%)増加しました。

これは、あかいかが増加したためです。

イ まぐろはえ縄の漁獲量は2万4,261 tで、前年に比べ4,581 t (23.3%)増加しました。

これは、きはだ等が増加したためです。

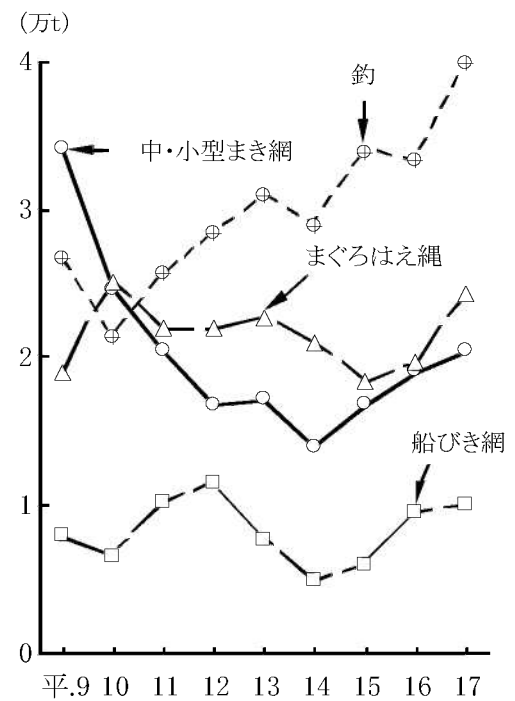
ウ 中・小型まき網の漁獲量は2万450 tで、前年に比べ1,380 t (7.2%)増加しました。

これは、あじ類、いわし類等は減少したものの、さば類が大幅に増加したためです。

エ ひき回し船びき網の漁獲量は8,868 tで、前年に比べ474 t (5.6%)増加しました。

これは、しらすが増加したためです。

図2 主要漁業種類別漁獲量の推移



(2) 主要魚種別漁獲量

ア まぐろ類の漁獲量は2万4,608 tで、前年に比べ2,534 t (11.5%)増加しました。

これは、遠洋まぐろはえ縄で、きはだが大幅に増加したためです。

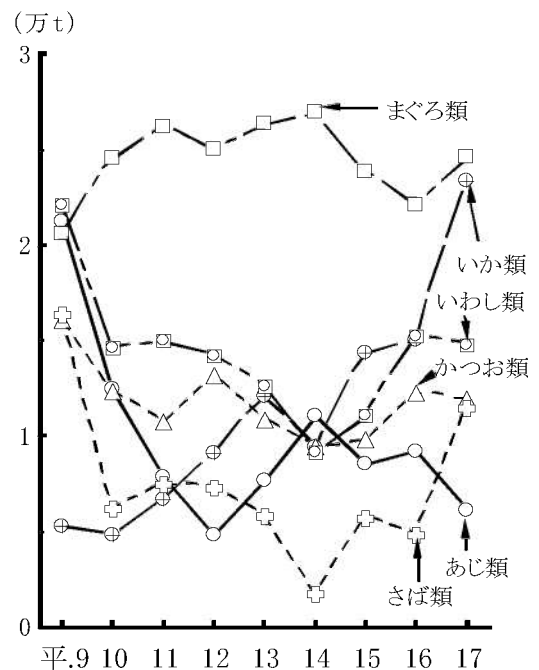
イ いか類の漁獲量は2万3,325 tで、前年に比べ8,319 t (55.4%)増加しました。

これは、いか釣による漁獲量が増加したためです。

ウ いわし類の漁獲量は1万4,743 tで、前年に比べ457 t (3.0%)減少しました。

これは、引き回し網でしらすは増加したものの、中・小型まき網やその他の敷網で、うるめいわしが減少したためです。

図3 主要魚種別漁獲量の推移



エ かつお類の漁獲量は1万1,946 tで、前年に比べ279 t (2.3%)減少しました。

これは、かつお一本釣で、かつおが減少したためです。

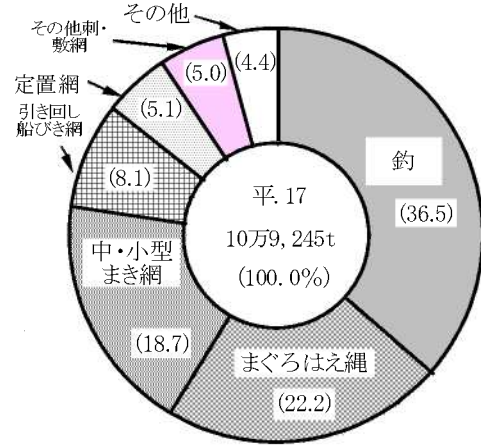
オ さば類の漁獲量は1万1,432 tで、前年に比べ6,639 t (138.5%)増加しました。

これは、中・小型まき網による漁獲量が大幅に増加したためです。

カ あじ類の漁獲量は6,091 tで、前年に比べ3,079 t (33.6%)減少しました。

これは、中・小型まき網でまあじ・むろあじ類とも減少したためです。

図4 漁業種類別漁獲量の構成割合



2 海面養殖業

海面養殖業の収穫量は6万3,521 tで、前年に比べ5,309 t (9.1%)増加しました。

(1) ぶり類の収穫量は5万9,490 tで、前年に比べ4,965 t (9.1%)増加しました。

これは、価格低迷の下、出荷量を増やして生産額の落ち込みをカバーする経営体が多かったためです。

なお、全国に占める割合は37.1%で、平成5年以降、1位となっています。

(2) ひらめの収穫量は717 tで、前年に比べ22t (3.0%)減少しました。

これは、輸入物の増加により、相場が大きく低下したことから、出荷量を減らした経営体があったためです。

(3) まだいの収穫量は592 tで、前年に比べ96t (14.0%)減少しました。

これは、近年の価格低迷による廃業や他魚種へ転換した経営体があったためです。

(4) のり類の収穫量は855 tで、前年に比べ31 t (3.5%)減少しました。

これは、主産地である出水地区において、水温等の気象条件に恵まれず生育が遅れたためです。

図5 ぶり類養殖業収穫量の県別割合

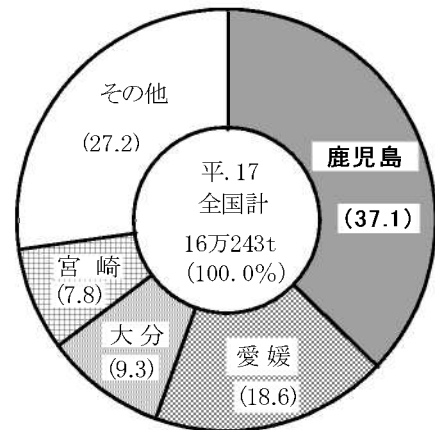
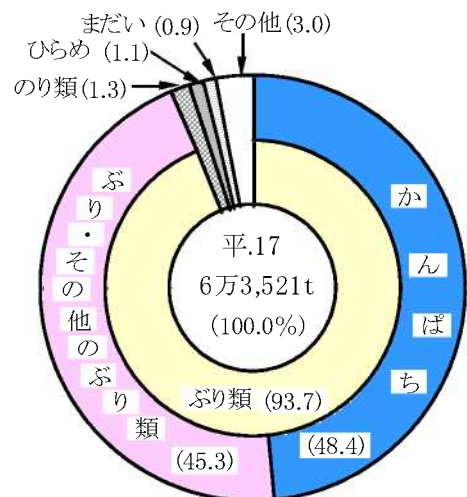


図6 養殖魚種別収穫量の構成割合



3 内水面漁業・養殖業生産量

内水面漁業(大淀川)及び養殖業(4養殖魚種)の生産量は7,776 tで、前年に比べ 350 t (4.3%)減少しました。

内水面養殖業

収穫量は7,775 tで、前年に比べ 351 t (4.3%)減少しました。

(1) うなぎ養殖の収穫量は7,412 tで、前年に比べ 345 t (4.4%)減少しました。

これは、池入れ時点におけるしらすうなぎの不漁と高騰により、放養尾数の減少した経営体があったためです。

なお、全国に占める割合は37.7%で、平成13年から5年連続1位となっています。

(2) こい養殖の収穫量は133 tで、前年に比べ 14 t (9.5%)減少しました。

これは、前年に引き続き、需要が低下したためです。

(3) ます類養殖の収穫量は117 tで、前年に比べ 3 t減少しました。

これは、需要の低下により、出荷量が大きく減少した経営体があったためです。

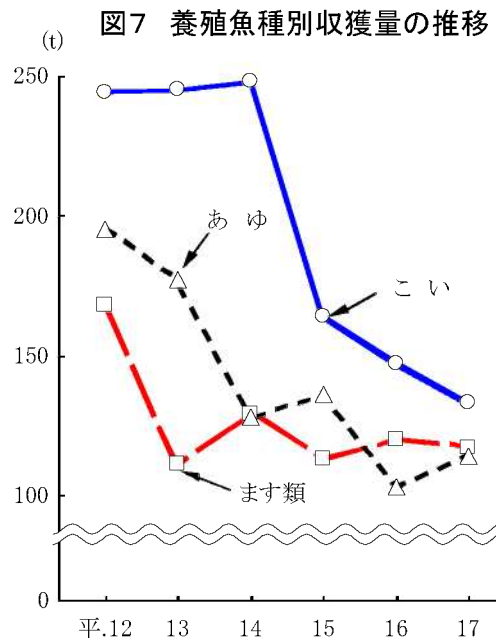


図8 うなぎ養殖県別収穫量の推移

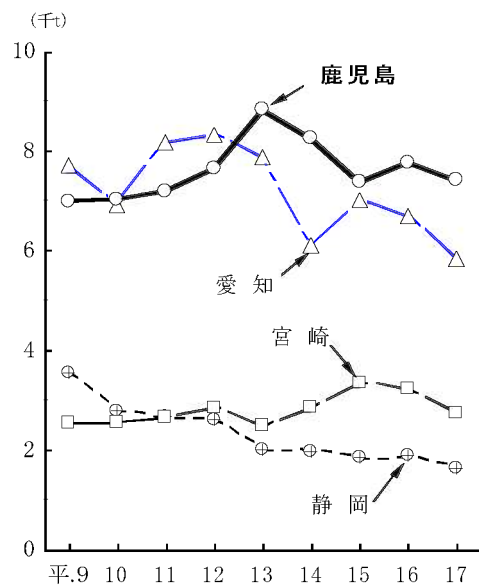
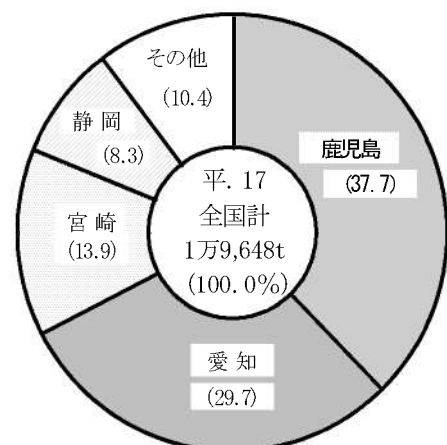


図9 うなぎ養殖収穫量の県別割合



【統計表】

1 海面漁業・養殖業種類別生産量

区 分	平.17	16	対前年差	対前年比	構成比
	t	t	t	%	%
総 生 産 量	172 766	155 042	17 724	111.4	
海面漁業漁獲量	109 245	96 830	12 415	112.8	100.0
底 び き 網	689	695	6	99.1	0.6
ひき回し船びき網	8 868	8 394	474	105.6	8.1
ひき寄せ船びき網	1 139	1 088	51	104.7	1.0
地 び き 網	1	1	0	100.0	0.0
中・小型まき網	20 450	19 070	1 380	107.2	18.7
その他のまき網	741	840	99	88.2	0.7
その他の刺網	3 111	3 359	248	92.6	2.8
その他の敷網	2 372	3 133	761	75.7	2.2
大型定置網	2 994	3 300	306	90.7	2.7
小型定置網	2 663	1 905	758	139.8	2.4
その他の網漁業	32	26	6	123.1	0.0
まぐろはえ縄	24 261	19 680	4 581	123.3	22.2
その他のはえ縄	536	611	75	87.7	0.5
釣	39 849	33 268	6 581	119.8	36.5
潜水器漁業	349	267	82	130.7	0.3
採 貝	41	35	6	117.1	0.0
採 藻	252	224	28	112.5	0.2
上記以外の漁業	897	934	37	96.0	0.8
海面養殖業収獲量	63 521	58 212	5 309	109.1	100.0
ぶり類養殖	59 491	54 527	4 964	109.1	93.7
まだい養殖	592	686	94	86.3	0.9
その他の魚類養殖	1 964	1 529	435	128.4	3.1
くるまえび養殖	480	485	5	99.0	0.8
のり類養殖	855	886	31	96.5	1.3
上記以外の養殖	139	99	40	140.4	0.2

2 海面漁業主要魚種別漁獲量

区 分	平.17	16	対前年差	対前年比	構成比
	t	t	t	%	%
海面漁業漁獲量	109 245	96 830	12 415	112.8	100.0
魚 類 計	84 115	80 120	3 995	105.0	77.0
ま ぐ ろ 類	24 608	22 074	2 534	111.5	22.5
か じ き 類	1 772	1 352	420	131.1	1.6
か つ お 類	11 946	12 225	279	97.7	10.9
さ め 類	1 020	728	292	140.1	0.9
こ の し ろ	16	191	175	8.4	0.0
い わ し 類 計	14 743	15 200	457	97.0	13.5
ま い わ し	11	5	6	220.0	0.0
うるめいわし	1 068	2 293	1 225	46.6	1.0
かたくちいわし	6 095	6 220	125	98.0	5.6
し ら す	7 569	6 683	886	113.3	6.9
あ じ 類 計	6 091	9 170	3 079	66.4	5.6
ま あ じ	4 571	6 555	1 984	69.7	4.2
む ろ あ じ	1 520	2 615	1095	58.1	1.4
さ ば 類	11 432	4 793	6 639	238.5	10.5
さ ん ま	9	15	6	60.0	0.0
ぶ り 類	1 046	1 124	78	93.1	1.0
ひらめ・かれい類	90	95	5	94.7	0.1
に ぎ す 類	5	3	2	166.7	0.0
に べ ・ ぐ ち 類	48	59	11	81.4	0.0
え そ 類	223	240	17	92.9	0.2
い ぼ だ い	116	110	6	105.5	0.1
あ な ご 類	8	6	2	133.3	0.0
は も	102	99	3	103.0	0.1
た ち う お	511	502	9	101.8	0.5
え い 類	42	47	5	89.4	0.0
た い 類	1 038	1 030	8	100.8	1.0
い さ き	254	438	184	58.0	0.2
さ わ ら 類	326	198	128	164.6	0.3
し い ら 類	203	430	227	47.2	0.2
と び う お 類	1 464	1 637	173	89.4	1.3
ぼ ら 類	34	40	6	85.0	0.0
す ず き 類	30	28	2	107.1	0.0
あ ま だ い 類	20	19	1	105.3	0.0
ふ ぐ 類	167	268	101	62.3	0.2
き び な ご	1 795	1 976	181	90.8	1.6
その他の魚類	4 958	6 022	1 064	82.3	4.5
え び 類	519	475	44	109.3	0.5
か に 類	43	48	5	89.6	0.0
貝 類	97	101	4	96.0	0.1
い か 類	23 325	15 006	8 319	155.4	21.4
た こ 類	220	200	20	110.0	0.2
う に 類	406	471	65	86.2	0.4
な ま こ 類	23	23	0	100.0	0.0
海産ほ乳類	3	12	9	25.0	0.0
その他の水産動物	0	0	0	0.0	0.0
海 藻 類	494	375	119	131.7	0.5

3 海面養殖業養殖魚種別収獲量

区 分	平.17	16	対前年差	対前年比	構成比
	t	t	t	%	%
海面養殖業収獲量計	63 521	58 212	5 309	109.1	100.0
ぶ り 類	59 490	54 525	4 965	109.1	93.7
うち、かんぱち	30 737	27 370	3 367	112.3	48.4
ひ ら め	717	739	22	97.0	1.1
ま だ い	592	688	96	86.0	0.9
そ の 他 の 魚 類	1 249	791	458	157.9	2.0
く る ま え び	480	485	5	99.0	0.8
わ か め 類	19	16	3	118.8	0.0
のり類（生重量）	855	886	31	96.5	1.3
そ の 他 の 養 殖	121	83	38	145.8	0.2

4 内水面養殖業収獲量（4養殖魚種）

区 分	平.17	16	対前年差	対前年比	構成比
	t	t	t	%	%
合 計	7 775	8 126	351	95.7	100.0
ま す 類	117	120	3	97.5	1.5
あ ゆ	114	103	11	110.7	1.5
こ い	133	147	14	90.5	1.7
う な ぎ	7 412	7 757	345	95.6	95.3

【統計表の見方等】

1 統計数値については、単位未満を四捨五入したため、計と内訳は一致しない場合があります。

2 表中に用いた記号は、以下のとおりです。

「 - 」・・・ 負数又は減少したもの

「 - 」・・・ 調査は行ったが、事実のないもの

「 0 」・・・ 単位に満たないもの（例：0 . 4 t 0 t）

【調査の仕様】

1 調査の目的

本統計調査は、海面および内水面の漁業・養殖業の生産に関する実態を明らかにし、水産行政の基礎資料を整備することを目的としています。

2 調査の対象

本調査は、鹿児島県内の海面漁業・養殖業経営体、内水面漁業・養殖業経営体、水揚機関及び内水面漁業協同組合を調査対象としています。

3 調査期間

平成17年1月1日から12月31日までを調査期間としています。

なお、遠洋漁業等で年を越えて操業する場合は、航海の区切りとなる日の属する年に含めて調査を行っています。

4 調査方法

水揚機関等に調査票を配布し、自計申告する方法又は調査員若しくは職員による面接聞き取りの方法や、漁獲成績報告書の取りまとめによって行います。

5 用語の説明

○海面漁業とは、海面において利潤又は生活の資を得るために、生産物を販売することを目的として行う漁業生産の行為をいいます。

○海面養殖業とは、海面又は海面以外に設けられた海水面において、人工施設を施して、水産動植物を集約的に育成し、収穫する事業をいいます。

○内水面漁業とは、公共の内水面において水産動植物を採捕する事業をいい、天然種苗の採捕及び漁業権の設定されている河川・湖沼の内水面での遊漁を含んでいます。

○内水面養殖業とは、内水面において施設を施して、水産動植物を集約的に育成（種苗の育成を含む）し、収穫する事業をいいます。

○ この資料の数値は概数であり、確定値については、平成19年3月刊行予定の『第53次鹿児島農林水産統計年報』、『平成17年図説鹿児島県漁業の動き』に掲載します。

○ この統計調査結果は、九州農政局鹿児島農政事務所ホームページ中の「数字で見る農林水産業」に掲載しています。【<http://www.kagoshima.info.maff.go.jp/index.htm>】

【関連リンク】

水産施策関連ページ

<http://www.maff.go.jp/suisan.html>

農林水産省公表の水産関係統計調査結果

<http://www.maff.go.jp/www/info/index.html>

分野別分類は「水産」、品目別分類は「水産物」に分類しています。

問い合わせ先

◎本統計調査結果について

連絡先：九州農政局鹿児島農政事務所統計部
生産流通消費統計課 統計管理官

TEL：（直通）099(222)7548

FAX：099(224)1501

◎農林水産統計全般について

連絡先：九州農政局鹿児島農政事務所統計部
統計企画課 企画係

TEL：（直通）099(222)7523

FAX：099(224)1501